

エス ディー ジー ズ
**JA女性組織の活動は、SDGs
 そのもの！ 私たちの活動は、
 世界の課題解決につながっています**

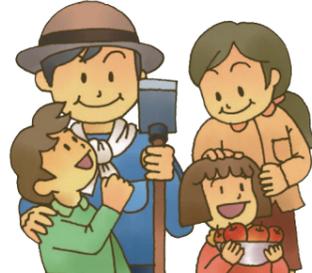
SDGsとは、2015年国連で採択された持続可能な社会をつくるための17の目標です。社会の問題を解決し、よりよい未来を迎えるために、2030年に向けて世界が合意しました。そこには、世界のみんが力を合わせて、地球上のさまざまないのちのつながりや、その恵みを大切に、誰もが豊かさを

感じられる平和な世界をつくらうという、ビジョンが掲げられており、それぞれの目標は相互に関連しています。JA女性組織の活動はSDGsそのものです。「誰一人取り残さない」という思いで、地域のさまざまな問題を力を合わせて、取り組んでいきましょう。

1 貧困をなくそう	2 飢餓をゼロに	3 すべての人に健康と福祉を	4 質の高い教育をみんなに	5 ジェンダー平等を実現しよう	6 安全な水とトイレを世界中に	7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	8 働きがいも経済成長も	9 産業と技術革新の基盤をつくろう
10 人や国の不平等をなくそう	11 住み続けられるまちづくりを	12 つくる責任つかう責任	13 気候変動に具体的な対策を	14 海の豊かさを守ろう	15 陸の豊かさを守ろう	16 平和と公正をすべての人に	17 パートナリシップで目標を達成しよう	

国連で家族農業年10年と決められました

2017年末に開かれた国連総会では、2019年から2028年までの10年を「家族農業の10年」と決定しました。家族農業は世界の食料生産の約8割を担っており、世界中の食卓を守る重要な役割となっています。SDGsで掲げられた貧困や飢餓の撲滅などの目標達成に向かう上で、家族農業という持続性のある農業形態は特に注目されています。



協同組合はユネスコで世界遺産に登録されています

2016年11月協同組合を無形文化遺産として登録しました。登録理由は「共通の利益と価値を通じてコミュニティづくりを行うことができる組織であり、雇用の創出や高齢者支援から都市の活性化や再生可能エネルギープロジェクトまで、さまざまな社会的な問題への創意工夫あふれる解決策を編み出している」というものです。日本でも協同組合の活動をもっと広めていきましょう。



JA全国女性協ホームページを活用した情報の発信

リレーコラム形式で全国的女性組織の活動を定期的に更新しています。現在は第4弾として「歴史を振り返り、次代につなごう」をテーマとしたリレーコラムを掲載中です。また、伝統料理の継承活動として四季折々の地域に伝わるレシピや家庭の味等について情報を収集し、「母から子へ、伝えたいわが家の味、地域の味!!」にレシピを掲載しています。



Facebook (フェイスブック) ページの活用

JA全国女性協とフレッシュミズのアカウントを作成し、情報発信に取り組んでいます。フレッシュミズのページでは、全国のフレッシュミズメンバーが交流するページを運営しており、フレッシュミズ自身や、JA事務局・JA都道府県女性組織事務局からの投稿を基に、活動内容を共有するとともに、インターネット上での全国のフレッシュミズメンバーの出会い・交流の場となっています。



JA女性組織3カ年計画 2022年度～2024年度

**JA女性
 想いをひとつに かなえよう**

新型コロナウイルス感染症は、私たちのくらしや食や農を取り巻く環境、JA女性組織活動においては集まれなくなることによる仲間との関係希薄化などの影響を与えました。

また、それら以外にも、私たちの回りには、食料自給率の低迷や多発する自然災害、「食品ロス」など、様々な問題が発生しています。

これらの問題をクリアするため、今、改めてメンバー同士がつながりを持ち、地域の仲間とつながり、理解者を増やすことで、「食」「農業」「地域」を次代につなぎ、守るための取り組みがたいせつになっています。そのためにも「食」と「農」について学習活動と運動を実践し、JA運営に参画することで関わりを深めます。

JA女性組織では、「つながろう」「まもろう」「かかわろう」の3つの具体的な目標を掲げ、ひとつの大きなテーマに向かって、これからもJAを抛りどころに、メンバーが想いをひとつにし、実現する(かなえる)ことをめざします。

JA女性組織の活動は、SDGsそのものです。JA女性組織3カ年計画の実践を通じ、JA女性組織がSDGsの達成に貢献することにより持続可能な世界を実現し、メンバーや地域が「幸せ(ハッピー)」になることをめざします。

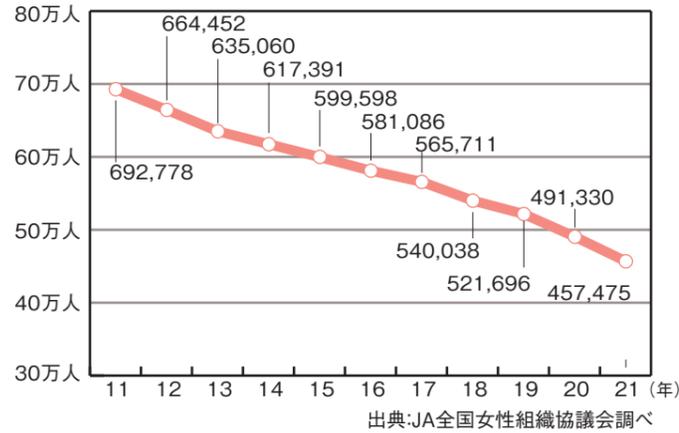
地域をつなぐ3つの具体的活動

1 つながろう

- 次代のリーダーを育成し、全組織でフレミズ組織の設置と、世代間交流をすすめることで、組織の活性化とメンバー数の拡大をめざします。
- 消費者と生産者、JA役職員とJA女性組織、メンバー同士とのつながりを大切に、Web等も活用しながら運動に取り組みます。
- 組合員・地域住民等の理解者を増やし、積極的なJA事業や組織活動への参加を促します。
- 地域の多様な組織、協同組合と連携して「食」「農業」「地域」を次代につなぎ、守るための取り組みをすすめます。



JA女性組織メンバー数の推移



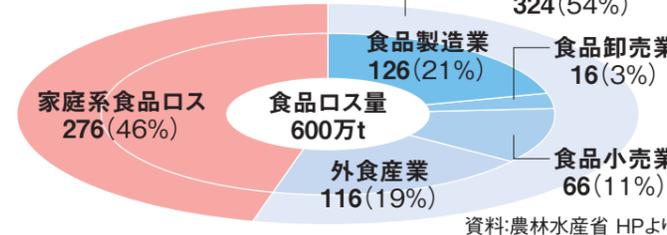
2 まもろう

- 地産地消、国消国産*を推進し、食料自給率の向上に向けた運動の展開をすすめます。
- 伝統食の継承、食農教育に取り組み、食を次代につなぎます。
- 家庭から食品ロスを見直し、「子ども食堂」や「フードドライブ*」に取り組み、地域を支えます。
- 防災意識を高めることにより、万が一の際の備えを万全にします。
- 食料生産の大部分を担う家族農業に対する理解を深めることにより、持続性のある農業形態を守ります。
- あらゆる世代の身体・心の健康を対象とした健康増進活動を展開します。

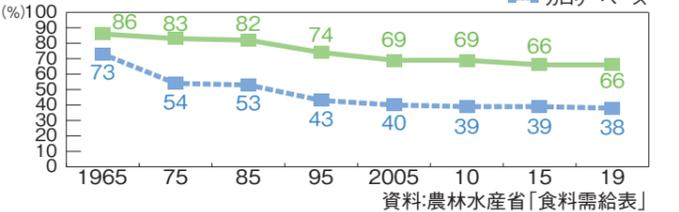


*国消国産…国民が必要とし、消費する食べものは、できるだけその国で生産するという考え方のこと。
*フードドライブ…家庭などで食べきれない余っている食品を持ち寄り、施設などに提供する活動のこと。

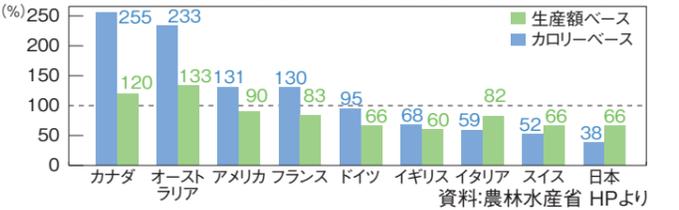
食品ロスのグラフ 単位:万t



日本の食料自給率の推移

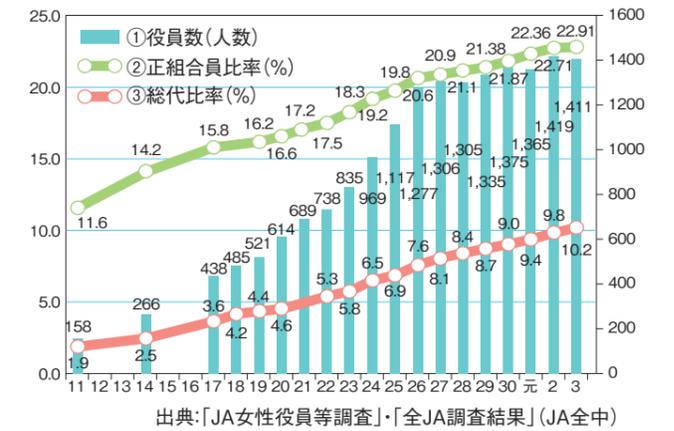


日本と諸外国の食料自給率 2017年度(日本のみ2019年度)



3 かかわろう

- 農業への関わりを深め、女性農業従事者の育成とともに、活躍できる場づくりに取り組みます。
- JA事業への積極的な参画をすすめ、JA運営への意思反映をすすめます。
- JA運営への女性参画目標である「正組合員30%以上、総代15%以上、理事等15%以上」をめざします。
- JA女性組織メンバー全員が正・准組合員となることをめざします。
- 「食」と「農」に関する理解醸成のため、消費者と生産者の関係づくりをすすめるとともに、学習活動と情報発信に取り組みます。



第29回JA全国大会議案(2022~2024年度)

JAグループは、下図のめざす姿の実現にむけて、引き続き3つの基本目標「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」とあわせて、協同組合の原

点である「アクティブ・メンバーシップの確立」などに取り組むこととしています。JAを拠り所として活動する私たちJA女性組織メンバーは、JAが地域の農業とく

らしになくてはならない存在となるようJAとの対話や活動を通じてJAの自己改革の後押しをしましょう。

注:第28回JA全国大会議案(素案)より抜粋・修正

